ティッシュの常識を変えた世界に誇るイノベーション

三〇年をつなぐ河野製紙

世界初の裏側

代表取締役社長 河野 晃久さん

私たちにとって身近な存在であるティッシュ。たった一枚にも、生産者の多大な努力と苦労が込められている。高知県高知市に本社工場をかまえる「河野製紙」。この工場は、世界で初めて保湿ティッシュの製造に成功した工場である。

この技術を生み出したきっかけは、四代目社長が長年鼻炎に悩んでいたことだった。「過去のティッシュは生地が荒く、鼻が真っ赤になってしまう」そんな自分と同じ悩みを抱える人々の暮らしを助けたいという社長の優しさと情熱から、保湿ティッシュの開発を始めたのだ。町中の工場から世界に先駆ける技術が生み出された瞬間である。

しかし、開発は容易ではなかった。試作の段階では、天気や気温に品質が左右されるなど多くの壁に直面し、さらに試作品を機械化するためのコストにも頭を抱えた。

試行錯誤を繰り返し、三年間の歳月をかけて、ついに理想の保湿ティッシュは完成に至った。河野製紙は、他社に比べると比較的に社員数の規模は小さい。しかし、それを逆に強みと捉え、商品一つひとつに心を込め丁寧に作製することで、他社との差別化を図っている。

品質にこだわり抜いた製品

「〝常にいいものを〟これは先代から続けて受け継がれている言葉」と語るのは、後を継いだ五代目の河野晃久さん。沢山の方々に喜んで手に取って貰うために常日頃この言葉を意識して励んでいる。他社と競争しない、人々が喜ぶものを作り続けたいという。自社の良さを見出す努力を惜しまない。

ジビエとの共通点

河野製紙とジビエ部につながることがある。「失敗を惜しまない」事だ。新たな取組からの結果全てを学びとして受け止め次回に活かす事の重要さを感じている点が共通点のように思えた。また、「伝えることの難しさ」に悩んでいる事も何か繋がるものを感じた。河野製紙の魅力は「品質」だ。ジビエ部の場合、野生鳥獣被害の「現状周知」に頭を抱えている。言葉で表現できない事を多くの方に伝えるため、挑戦と工夫を織り交ぜ取り組んでいる。

河野製紙は今では高知と埼玉に約二二〇名の従業員を抱え、多数の商品から多くのリピーターを生んでいる。しかし、少子化が進行している事から、従業員減少が予想される中「少人数でも一人ひとりのスキルを磨き上げていきたい。今後の目標は、世の中に認知してもらう事。知る人ぞ知る会社となり海外展開にも挑みたい。その為に自分達の活動を有意義に取り組みたい」と河野さんは言う。過去にテレビのランキングで二度も一位を獲得している。二三〇年間、時代に合わせた人々のニーズに応える為に多くの苦労と挫折を繰り返しながら人々の生活を支え続けた河野製紙。これからの活躍にも目が離せない。

教えて！河野（かわの） 晃久（あきひさ）さん

河野晃久さんに、活動への意気込みやアドバイスを聞いてみました!!

～お仕事編～

Q ペーパーレス化の社会で今後、どのような価値を提供していきますか。

A ペーパーレス化が進んでも、家庭紙は欠かせません。高品質や、使いやすさの工夫が大切です。消費者の選択肢を確保すること。パッケージや素材を工夫しながら新しい価値を生み出していきたいです。

Q 大切にしていること

A 当社の活動は、「この商品がなければ困る」と消費者に思ってもらえ、社会に不可欠な商品を提供することを目指しています。社内教育を充実させて、社員と会社の成長を目指していきたいです。

Q 先輩から受け継いだ想い

A 面白い、楽しい、ニッチ、新しいものを積極的に取り入れて、他社と直接戦う必要のないユニークな製品を生み出すことを目指しています。ただ、流行を追うのではなく、常に新しい視点で道を切り開くという強い信念を持っています。

～メッセージ編～

Q 学生へのアドバイス

A 時代に合わせて変化を取り入れ、向上心を持ち続ける事が大切です。「これでいいや」と満足せず、目標に向かって努力を重ねてほしい。理想を描き、一つひとつの経験を大切にすれば人生もより豊かになると思います。

～未来編～

Q 未来の社員に伝統として残すこと　また伝えたい想い

A 私たちは「働きやすい環境」を大切にし、その価値を世の中に広く認知されるようにしていきたいです。お客様から「ここだったら間違いない」と信頼されるような存在であり続けること、それが私たちの伝統として未来の社員に受け継いでほしい想いです。

編集後記

今回「河野製紙」の皆様にご協力していただき取材をしました。

私たちの身近にあり、当たり前に使用していたティッシュの裏側では、多く人が苦労と努力を重ねており、工場では一つのティッシュを製造するのに多くの方が携わっていることに驚きました。自分たちの当たり前の裏側では誰かの苦労が必ずある事を身に染みて感じました。小さなことでも感謝を忘れずに活動したいです。

高知商業高等学校
ジビエ部 Dチーム

ハイスクール
高知新聞
ものメッセKOCHI2025
第14回高知県
ものづくり総合技術展
2025年（令和7年）
11月15日
土曜日
発行所
高知市立
高知商業高等学校
ジビエ部Dチーム
協力
株式会社高知新聞社
号外
取材の様子はコチラ!
ものメッセ
KOCHI2025